

米国農務省穀物等需給報告(2014年10月10日発表のポイント)

平成26年10月14日

大臣官房食料安全保障課

米国農務省は、10月10日(現地時間)、2014/15年度の6回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2014/15年度の穀物全体及び大豆の生産量は消費量を上回る見込み－

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:24億6,898万トン(対前年度比0.04%減)
- ② 消費量:24億5,204万トン(対前年度比1.4%増)
- ③ 期末在庫量:5億2,280万トン(対前年度比3.3%増)
期末在庫率:21.3%(対前年度差0.4ポイント増)

【主な品目別の動向】

小麦 :生産量は、米国で乾燥及び4月の低温の影響等により減少、カナダ等でも減少するものの、EUで春から初夏にかけての好天による増加、ロシア、中国の単収上昇等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量もEU等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:7億2,112万トン(対前年度比0.8%増)・・・EU、ロシア、中国等で増加、カナダ、米国等で減少(前月に比べ、EU等で上方修正)
- ② 消費量:7億1,411万トン(対前年度比1.4%増)・・・EU、中国等で増加
- ③ 期末在庫量:1億9,259万トン(対前年度比3.8%増)・・・EU、中国、ウクライナ、ロシア等で増加、カナダ等で減少
期末在庫率:27.0%(対前年度差0.6ポイント増)

とうもろこし :生産量は、ウクライナで通貨安に伴う資材コストの上昇による単収低下及び晩夏の高湿・乾燥から減少、ブラジルで大豆へのシフトから減少するものの、米国で記録的な高単収、EUで7月の豊富な降雨量と好ましい気温により増加すること等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量も中国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:9億9,069万トン(対前年度比0.2%増)・・・米国、EU等で増加、ウクライナ、ブラジル、カナダ等で減少(前月に比べ、EU、米国等で上方修正、ウクライナ等で下方修正)
- ② 消費量:9億7,311万トン(対前年度比2.1%増)・・・中国、米国等で増加
- ③ 期末在庫量:1億9,058万トン(対前年度比10.2%増)・・・米国等で増加(前月に比べ、米国等で上方修正)

期末在庫率:19.6%(対前年度差1.4ポイント増)

米(精米) :生産量は、中国、インドネシア、米国等で増加するものの、インドでモンスーン到来の遅れによる作付遅延から収穫面積減少が見込まれ減少することから、世界全体では前年度を下回る見込み。また、消費量は中国、インド等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量:4億7,548万トン(対前年度比0.2%減)・・・インド等で減少
- ② 消費量:4億8,169万トン(対前年度比1.2%増)
- ③ 期末在庫量:1億424万トン(対前年度比5.6%減)・・・インド等で減少
期末在庫率:21.6%(対前年度差1.6ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国、ブラジルで収穫面積の増加と単収の上昇により共に史上最高となること、大豆がとうもろこしに比べ価格優位にあること等から、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る見込み。また、消費量も中国、米国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:3億1,120万トン(対前年度比9.2%増)・・・米国、ブラジル等で増加
- ② 消費量:2億8,433万トン(対前年度比5.0%増)・・・中国、アルゼンチン等で増加
- ③ 期末在庫量:9,067万トン(対前年度比36.4%増)・・・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加
期末在庫率:31.9%(対前年度差7.3ポイント増)

(参考1)

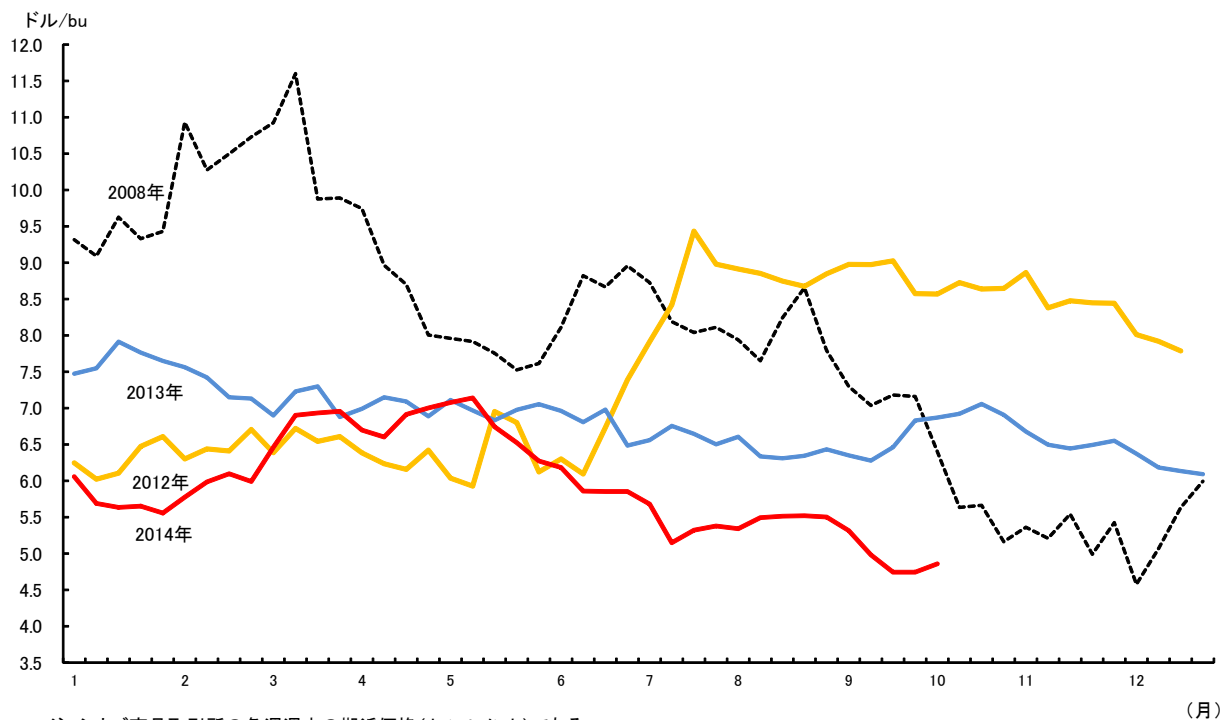
平成26年10月14日
大臣官房食料安全保障課

世界の穀物の価格動向(2014年)

- 小麦:4.86ドル/bu(前年同時期の価格:6.87ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、米国冬小麦地帯での乾燥の継続から一旦値を上げたものの、2月以降の降雨・降雪による乾燥懸念の緩和から7ドル/bu前後に値を下げ、6月以降は中国の旺盛な輸入需要があったものの、米国産冬小麦及び春小麦、北半球の小麦生産地での収穫の進展と世界全体の豊作見込みから、6ドル/bu台半ばで推移。9月中旬以降、アルゼンチンの霜害による作柄不安や四半期在庫報告での米国産への旺盛な飼料用需要等から一時7ドル/bu台に値を上げたものの、10月中旬以降は、2014/15年度の米国産冬小麦等の初期生育が順調なことや、カナダ、豪州の潤沢な輸出余力等から2014年1月には5ドル/bu台に値を下げた。

2014年2月以降、米国大平原南部の寒波による凍害や乾燥型の天候による冬小麦の作柄悪化懸念、ウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念から7ドル/bu台前半まで値を上げたものの、5月以降、世界在庫が潤沢であること、更に6月中旬以降は、割高な米国産の輸出需要が弱含みであること及び米国産冬小麦の順調な収穫進展等から値を下げ、現在は4ドル/bu台後半で推移。



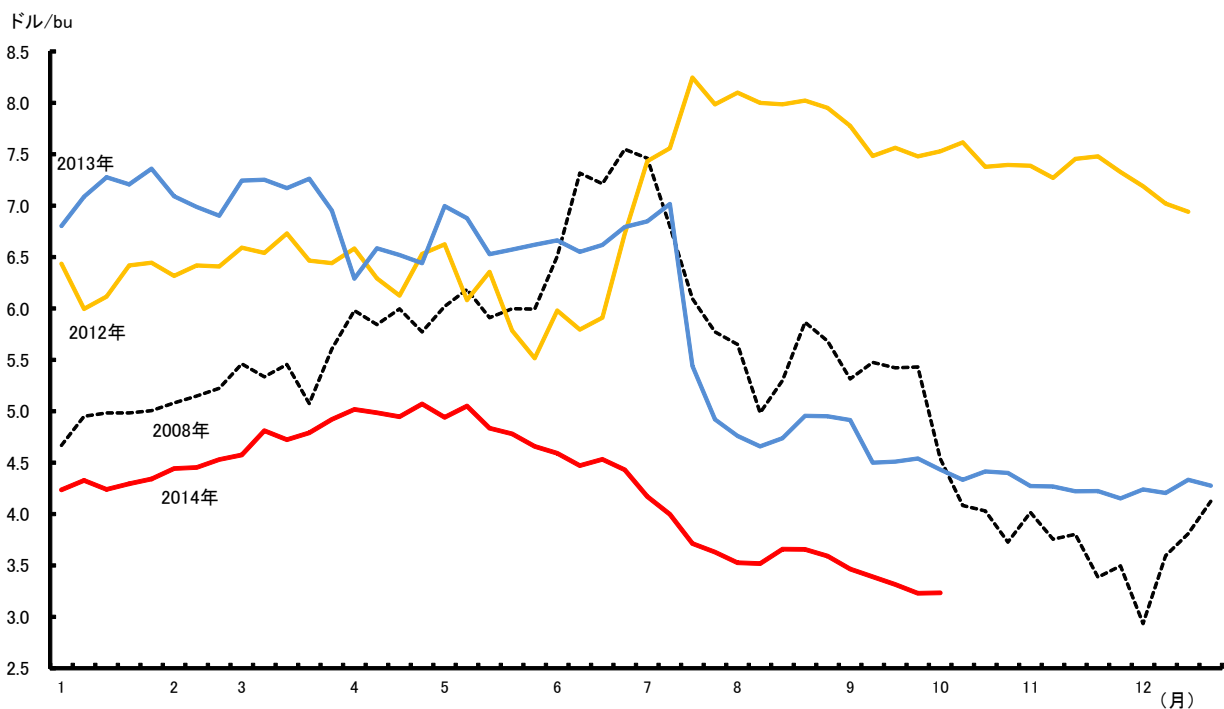
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

(月)

● とうもろこし: 3.23ドル/bu (前年同時期の価格: 4.43ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、米国のエタノール生産は減少したものの、飼料用需要の増加やアルゼンチンの高湿・乾燥天候から7ドル/bu台前半に値を上げた。2月以降、米国の輸出需要の不振やブラジルの豊作見込み、3月末の米国四半期在庫報告での市場予想を上回る在庫等から値を下げたものの、4月中旬以降、米国で低温多雨型の天候による2013/14年度の作付け遅れ、旧穀の需給の引き締めから、7ドル/bu前後に上昇した。7月中旬以降、2013/14年度の米国産の豊作見込みから、4ドル/bu台後半に大きく下落し、8月以降も、収穫の進展と豊作見込みから値を下げ、11月以降は、米国環境保護局のエタノール向け使用義務量の引き下げ提案や、米国産とうもろこしの大豊作が確定的となったことから4ドル/bu台前半まで低下した。

2014年1年半ば以降、堅調な輸出需要や2月下旬のウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念に加え、米国コーンベルト北部での低温多雨による作付遅延懸念等から5ドル/bu前後に上昇した。5月以降、米国で生育に適した天候に恵まれたことから値を下げ、現在は3ドル/bu台前半で推移。

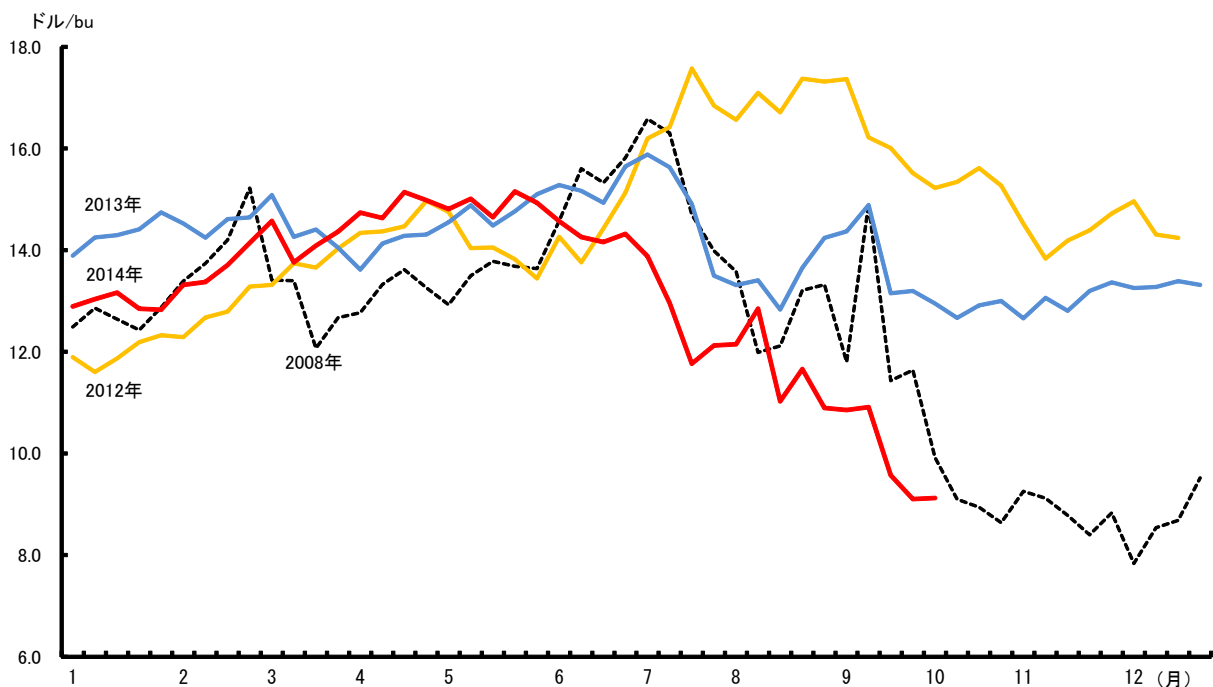


注: シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● 大豆: 9.12ドル/bu(前年同時期の価格: 12.95ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における10月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、好調な輸出成約やアルゼンチンの高温・乾燥天候、米国の堅調な輸出需要から値を上げたものの、3月中旬から南米の収穫の進展や3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったことから値を下げた。4月中旬以降、米国で低温多雨型の天候による2013/14年度の作付け遅れや、旧穀の需給の引き締めから16ドル/bu前後に上昇したものの、7月中旬以降、米国产の豊作が見込まれたことから、13ドル/bu台後半に下落。8月以降、米国产の降雨不足による作柄への影響が懸念され14ドル/bu台後半まで値を上げたものの、9月中旬以降は、降雨による作柄の回復や収穫の進展から値を下げた。11年半ば以降、南米では作付けが順調に進み、その後の生育も良好であったことから12ドル/bu台後半から13ドル/bu台前半で推移した。

2014年2月以降、米国の堅調な輸出需要に伴う需給の引き締めやブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から値を上げたものの、5月中旬以降、米国で生育に適した天候に恵まれたことから値を下げ、現在は9ドル/bu台前半まで下落。

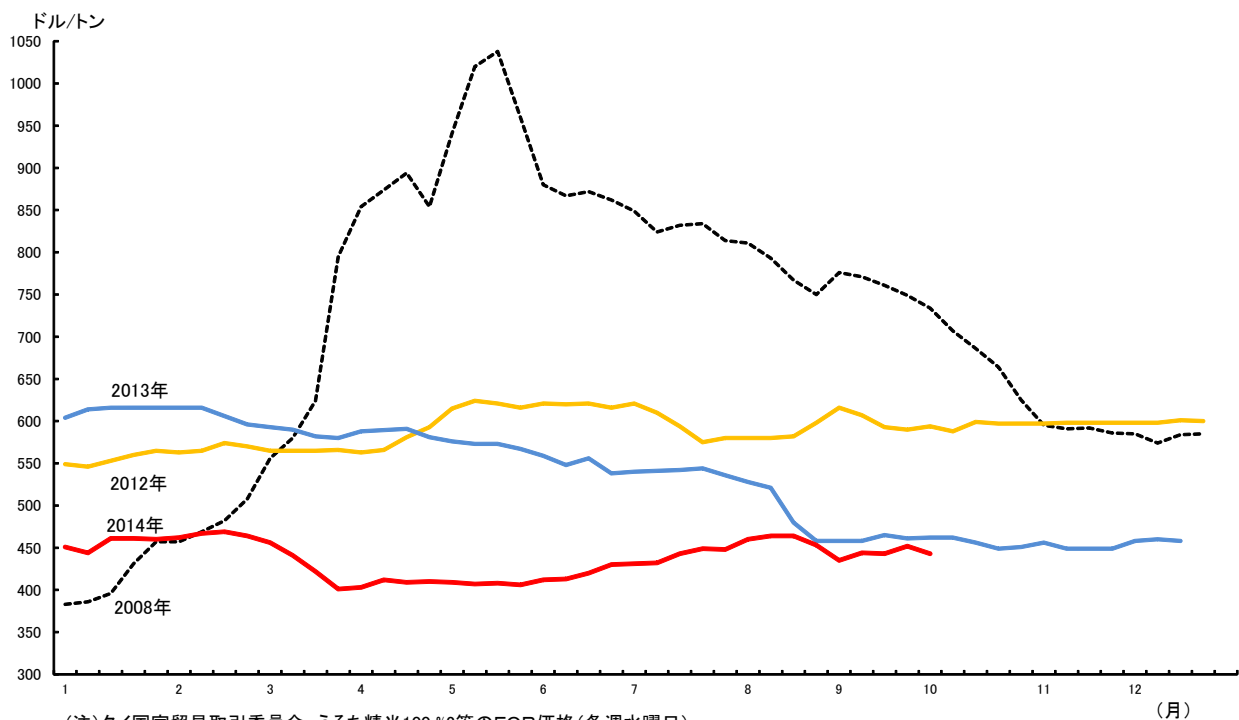


注: シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

● 米：443ドル/トン（前年同時期の価格：462ドル/トン）
 （価格は、タイ国家貿易取引委員会における10月第1水曜日のFOB価格。）

2013年1月以降、輸出向け供給量の引き締めから価格は堅調に推移したものの、2月以降、タイにおける政府在庫の放出や輸出需要の動きが鈍いこと等により、500ドル/トン半ばから後半で推移し、8月中旬以降にも政府在庫の放出により400ドル/トン半ばまで低下した。

2014年3月以降、タイにおける再度の政府在庫の放出により値を下げたものの、5月末以降、タイが政府在庫の数量や品質を検査するために放出を一時停止したため、現在は400ドル/トン半ばで推移。



（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格（各週水曜日）
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年1月	2月
113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	89.18	93.21
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
94.75	97.71	101.08	97.43	99.71	97.87	99.24	97.85	100.03	103.46
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
103.94	102.13	102.27	102.56	101.79	102.05	101.72	102.96	107.09	

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年1月	2月
49.38	41.16	78.91	93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	42.80	44.00
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
46.00	45.60	44.00	44.25	45.40	44.25	45.75	51.00	51.75	54.80
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
53.75	50.25	48.25	45.60	44.25	42.00	40.00	40.75	44.00	

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年1月	2月
56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	94.83	95.32
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
92.96	92.07	94.80	95.80	104.70	106.54	106.24	100.55	93.93	97.89
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
94.86	100.68	100.51	102.03	101.79	105.15	102.39	96.08	93.29	

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成26年9月, 129頁
但し、26年9月は、「U.S. Energy Information Administration」の9月26日までの週別価格の平均値。